

今週（7月29日から8月2日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、日銀当座預金残高が1日まで405兆円程度で推移し、2日に法人税・年金保険料揚げ等の要因により390兆円台半ばまで減少した。無担保コールO/Nは、レボ市場でレートが上昇した影響もあり、邦銀を中心に調達ニーズが強まり、▲0.08～▲0.05%近辺での出会いが中心となった。無担保コールO/N加重平均レートは、▲0.07%台から▲0.06%台へと週後半にかけて徐々に上昇していった。ターム物は、1、2W物を中心に▲0.04%前後で複数の出会いが見られた。

固定金利方式の共通担保資金供給オペは、2日に2W・15,000億円がオファーされ、応札額2,256億円（期落ち額2,406億円）の札割れとなった。

7月29日～7月30日に掛けて開催された金融政策決定会合では、現状維持が決定された。声明文には「先行き、『物価安定の目標』に向けたモメンタムが損なわれる恐れが高まる場合には、躊躇なく、追加的な金融緩和措置を講じる」との文言が追加された。

●レボ市場

今週のGC O/N物は、概ね▲0.085～▲0.025%程度の水準で推移した。週後半にかけてレートを大きく切り上げた。

SC個別銘柄では、5年136～140、10年336～355、20年166～169、30年56～63、40年6～12などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、全般的に閑散な中、引き続き業者の在庫の積み上がりが見られ、3Mで▲0.115%程度での出会いが見られるなど、軟調な展開となった。

7月31日に実施された短国買入オペは、2,500億円（前回は▲2,500億円）でオファーされた。オペ通告後に3M物が▲0.115%で出合う展開となる中、平均落札利回較差+0.007%、按分落札利回較差+0.005%と、在庫調整の売りから小甘い結果となった。

8月2日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.124～▲0.120%で出合う展開となったものの、平均落札利回▲0.1154%、按分落札利回▲0.1070%と前回債からレートが上昇し、テールも流れる結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.107～▲0.099%出会いと小甘く推移していた。

●CP市場

今週のCP発行市場は、月末・月初を跨ぐ週となり、償還総額1兆2,700億円程度に対し、発行総額が1兆3,700億円程度の活況なマーケットとなった。機械・鉄鋼・石油・不動産等の幅広い業態から大型発行が実施された。市場残高に関しては、6月末以来順調に拡大し、週を通して21兆円台後半での推移となった。特に事業法人の残高に限って見ると、7月末も月末残高としては過去最高を記録したほか、ほぼ連日のように最高を更新しており、引き続きCPを積極的に活用しようとする事業法人の発行姿勢が鮮明になった。発行レートについては、9月末越えの希少銘柄で堅調な水準での買い姿勢が一部に見られたものの、高水準の市場残高を背景に、殆どの銘柄で0%から若干程度のマイナス圏での落ちついた水準の決着が中心となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レボレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
7/29 (月)	21,616.80	△ 0.150	108.45	△ 0.072	△ 0.079	4,055,800
7/30 (火)	21,709.31	△ 0.155	108.78	△ 0.071	△ 0.078	4,054,100
7/31 (水)	21,521.53	△ 0.160	108.56	△ 0.071	△ 0.076	4,059,500
8/1 (木)	21,540.99	△ 0.135	109.24	△ 0.070	△ 0.068	4,046,500
8/2 (金)	21,087.16	△ 0.170	107.11	△ 0.063	△ 0.059	3,958,800

来週（8月5日から8月9日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
8/5 (月)	8月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)				7月のISM 非製造業景況指数
8/6 (火)	6月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30) 6月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 6月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	30Y 7,000億円 8/7発行			
8/7 (水)	決定会合における主な意見(7月29,30日分 8:50) 7月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50)				6月の米消費者信用残高
8/8 (木)	7月の景気ウォッチャー調査(内閣府) 6月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 6月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30)	TB6M 23,000億円 8/13発行	10Y物価連動 4,000億円 8/9発行		6月の米卸売売上高
8/9 (金)	4-6月期のGDP 1次速報(内閣府 8:50) 7月のマネーストック(日銀 8:50)	TB3M 42,800億円 8/13発行	エネルギー 対策借入 6,500億円 8/20借入		7月の米生産者物価指数 4-6月期の英GDP速報値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
8/5 (月)	600	▲ 4,900	▲ 4,300	国債買入 全店共通 CP買入 社債買入 国債補充	▲ 2,400 ▲ 200 ▲ 100 100	3,200 2,300	2,900	▲ 1,400	TB3M発行▲42700償還35900
8/6 (火)	0	2,000	2,000				0	2,000	
8/7 (水)	0	▲ 8,000	▲ 8,000				0	▲ 8,000	30Y発行▲7000
8/8 (木)	0	▲ 2,000	▲ 2,000				0	▲ 2,000	交付税借入▲10500期日10500
8/9 (金)	▲ 1,000	▲ 7,000	▲ 8,000	CP買入		2,500	2,500	▲ 5,500	10Y物価連動発行▲4000
週間合計	▲ 400	▲ 19,900	▲ 20,300	—	▲ 2,600	8,000	5,400	▲ 14,900	

8/5は日銀予想、8/6以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、大きな資金需給要因が見られない中、邦銀を中心に引き続き調達ニーズの強い展開が予想される。レポ市場は、参加者のスタンスに大きな変化がなければ、引き続きレートは横ばい圏で、高めに推移すると見られる。短国市場は8日に6M物、9日に3M物の入札が実施予定となっている。需給環境のレート水準への影響など、市場動向が注目される。CP市場は、6日にCP等買入オペが2,500億円予定されている。大きなレートの変化は見られないと予想される。また、再来週には夏期休暇に入る事業法人も多いと見られ、来週の発行市場の動向が注目される。

主要なイベントとしては、9日に4-6月期のGDP1次速報値、4-6月期の英国GDP速報値が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入